

西表島森林生態系保護地域における外来植物種対策についての考え方(案)

- ・固有の生態系を保護するために、在来種の生息・生育環境を脅かす外来植物種の影響を排除することが必要。
- ・西表島全体では多くの外来種の生育が確認されているものの、その内のほとんどの種が人為の加わった環境(道周辺、造成地、耕作放棄地等)での生育に限られ、自然環境への侵入は一部の種に限られる(「参考資料5」外来植物調査報告参照)。
- ・今後は、関係機関と連携し、自然環境への侵入の監視を継続すると共に、自然環境への侵入リスクの高い種、生態系サービスへの影響が高い種に対して優先的に駆除等の対策を講じる。(その際、在来種の植生回復が図られ、かつ新たな外来種の侵入が起こらないように留意する。)

■西表島で生育が確認された主な外来種

ギンネム、ソウシジュ、アメリカハマグルマ、シュロガヤツリ、パパイヤ、センダングサ類、ハウオウボク、オガサワラスズメノヒエ、カッコウアザミ、シロバナイガコウゾリナ、デリス、ビルマネム、モクマオウ



マーレ海岸林内のギンネム繁茂状況



ソウシジュ



ソウシジュ(枯れ個体)



モクマオウ(マングローブ林内)



アメリカハマグルマ(車道沿い)



アメリカハマグルマ(牧場跡地)